

## 調査の概要

- 本調査は、国全体の学力の状況について、経年の変化を把握・分析し、今後の教育施策の検証・改善に役立てるために実施。
- 平成28年度調査は、平成25年度調査に引き続き2回目の実施であり、同一問題の解答状況の変化を把握することが可能。
- より幅広いデータを得られるよう今回の調査からIRT（項目反応理論）に基づいた調査技術を導入。

調査対象：無作為に抽出された学校の小学校第6学年・中学校第3学年

（小学校430校（抽出率2.1%）、中学校521校（抽出率4.9%））

実施時期：平成28年5月～6月の期間中、調査の対象となった学校が実施可能な日

調査内容：国語、算数・数学

\* 同一問題で経年比較を行うため、調査問題は原則非公開

\* 問題冊子はそれぞれ13冊子作成。各学校は国語、算数・数学のどちらかの教科を実施し、同一校の児童生徒はそれぞれ別々の問題冊子について解答

## 同一問題の解答状況の変化（前回調査との比較）

	5ポイント 以上高い	5ポイント 未満の 変化	5ポイント 以上低い	計
小学校国語	1問	21問	2問	24問
小学校算数	2問	23問	3問	28問
中学校国語	5問	31問	2問	38問
中学校数学	7問	28問	1問	36問
計	15問	103問	8問	126問



同一問題の解答状況の変化からは、全体としては、おおよそ、前回調査時と同様の学力水準を維持している面がうかがえる。

### 具体的な問題例

#### 【5ポイント以上高いもの】

（小学校国語） 目的や課題に即して、資料から分かったことを書く（別紙P.1）

（小学校算数） 面積を求める式が正しい理由を、示された求め方を基に記述できる

（中学校数学） 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる  
 （別紙P.7）

#### 【5ポイント以上低いもの】

（小学校国語） 文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って二文に分けて書く

（小学校算数） 示された図と言葉を解釈し、長さを求める式を書くことができる

（中学校国語） 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う